

⑮御家譜略記 全（一部）

天保 11（1840）年カ 11月 1日

清和天皇以来の結城松平家の系図と略歴を記した文書です。家祖の結城秀康や、松平大和守家当主の事績が詳細に記述され、7代松平直温なおあつが寛政7（1795）年に誕生した頃まで記述されています。パネルでは5代朝矩ともりのり（直賢）部分を紹介しました。

朝矩あきのりは、元文3（1738）年3月14日松平明矩の長男に生まれ、寛延元（1748）年11歳で播磨国姫路（現兵庫県）藩主となります。しかし年少のため翌年上野国前橋に移封となります。明和5（1768）5月、武蔵国川越（現埼玉県）に初入りしますが、翌月31歳で死去しました。初名は直賢、通称喜八郎。川越藩主松平（越前）家初代。

八木健次家文書 P09702 No. 255

朝矩公

從四位侍從大和守

始直賢公

元文三年戊午三月十六日於白川御誕生御幼名久太郎君
又喜八郎君ト御改メリ
同年九月十一日堀中與一左衛門治喬家苗可差上吉
仰付則堀中喜八郎君稱シタラマツル
同五年庚申三月十一日 公儀ハ御廣有之此時ヨリ松平
ヲ稱シタマフ

【史料⑮】御家譜略記 全より

從四位侍從大和守

朝矩公

始直賢公

元文三戊午年三月十六日、白川に於いて御誕生、御幼名久太郎君、
又喜八郎君と御改めあり
同年九月十一日、堀中與一左衛門治喬家苗差し上ぐべき旨
仰せ付けられ、則ち堀中喜八郎君稱し奉る

同五年庚申三月十一日、公儀へ御広めこれあり、この時より松
平を稱したまう

寛保二年庚戌、明矩公姫路へ御所替につき、同年二月五日、白
川御登駕にて江府溜池の御屋鋪へ入らせらる、時御年五歳、

同三年辛亥五月、御痘瘡を病みたまう

寛延元年戊辰十一月十七日、明矩公御逝去、時朝矩公御年十一歳、
同年十二月二十七日、堀田相模守殿御宅に於いて御遺領御相続
仰せつけ為られ、この時御同姓出羽守様御同道也、且又姫路は所
柄の義御幼年につき、來春に至り御所替仰せ付けらるべきの旨
仰せ出さる

同二年己巳正月十五日、召しにより御名代として御同姓出羽守様
御登城、喜八郎君上州前橋へ御所替仰せつけ為られる

同月二十七日、御席大廊下に仰せ出さる

同年五月二十二日、姫路御渡し、前橋御請け取りあり

同年十一月十三日、前橋御本城利根川流御城の方へ欠け込み
危うく、これあるにつき、御住居三ノ丸へ御移りの儀、御老中本
多伯耆守正珍侯へ仰せ達せらるるの処、同月二十七日、御奉書を
以て御願いの通り仰せ付け為られる

同年十二月十八日、御登城、四品に叙せられ、大和守と御改め
あり、時御年十二歳

同三年庚午十一月二十七日、御登城、松平土佐守山内豊
敷侯御息女御縁組御願いの通り仰せ付け為られる

同年十二月十二日、御縫服

宝曆元年辛未十一月十一日御元服、同日御着甲

同二年壬申五月七日、前橋御初入りのため江府御登駕、同月九日
御着城、時御年十五歳

同七年丁丑五月三日、松平豊敷侯御息女御入興

同八年戊寅正月十一日、御実名朝矩公と御改めあり

同九年己卯十月二十七日、藤井右京権大夫兼矩卿御息女
松寫殿御養女として御城より直に御入興、但し昨年松平豊敷侯御
息女御逝去也

同十三年癸未六月四日、豆州熱海へ御入湯、同月二十五日御帰府
同年七月九日、前橋御城利根川水筋悪しく御城地へ段々欠け
込み、御住居危うく、これあるにつき、御見分の儀兼ねて御願
いの処今日御願い

同二年己巳正月五日、召しにより御名代として御同姓出羽守様御
登城、喜八郎君上州前橋へ御所替仰せつけ為られる
同月二十七日、御席大廊下に仰せ出さる
同年五月二十二日、姫路御渡し、前橋御請け取りあり
同年十一月十三日、前橋御本城利根川流御城の方へ欠け込み
危有之、御住居三ノ丸へ御移りの儀、御老中本多伯耆守
正珍侯に御達之處、同月二十七日、以て御奉書御願いの通り
為御付

同二年己巳正月五日、召しにより御名代として御同姓出羽守様御
登城、喜八郎君上州前橋へ御所替仰せつけ為られる
同月二十七日、御席大廊下に仰せ出さる
同年五月二十二日、姫路御渡し、前橋御請け取りあり
同年十一月十三日、前橋御本城利根川流御城の方へ欠け込み
危有之、御住居三ノ丸へ御移りの儀、御老中本多伯耆守
正珍侯に御達之處、同月二十七日、以て御奉書御願いの通り
為御付

同二年己巳正月五日、召しにより御名代として御同姓出羽守様御
登城、喜八郎君上州前橋へ御所替仰せつけ為られる
同月二十七日、御席大廊下に仰せ出さる
同年五月二十二日、姫路御渡し、前橋御請け取りあり
同年十一月十三日、前橋御本城利根川流御城の方へ欠け込み
危有之、御住居三ノ丸へ御移りの儀、御老中本多伯耆守
正珍侯に御達之處、同月二十七日、以て御奉書御願いの通り
為御付

同二年己巳正月五日、召しにより御名代として御同姓出羽守様御
登城、喜八郎君上州前橋へ御所替仰せつけ為られる
同月二十七日、御席大廊下に仰せ出さる
同年五月二十二日、姫路御渡し、前橋御請け取りあり
同年十一月十三日、前橋御本城利根川流御城の方へ欠け込み
危有之、御住居三ノ丸へ御移りの儀、御老中本多伯耆守
正珍侯に御達之處、同月二十七日、以て御奉書御願いの通り
為御付

同二年己巳正月五日、召しにより御名代として御同姓出羽守様御
登城、喜八郎君上州前橋へ御所替仰せつけ為られる
同月二十七日、御席大廊下に仰せ出さる
同年五月二十二日、姫路御渡し、前橋御請け取りあり
同年十一月十三日、前橋御本城利根川流御城の方へ欠け込み
危有之、御住居三ノ丸へ御移りの儀、御老中本多伯耆守
正珍侯に御達之處、同月二十七日、以て御奉書御願いの通り
為御付

同二年己巳正月五日、召しにより御名代として御同姓出羽守様御
登城、喜八郎君上州前橋へ御所替仰せつけ為られる
同月二十七日、御席大廊下に仰せ出さる
同年五月二十二日、姫路御渡し、前橋御請け取りあり
同年十一月十三日、前橋御本城利根川流御城の方へ欠け込み
危有之、御住居三ノ丸へ御移りの儀、御老中本多伯耆守
正珍侯に御達之處、同月二十七日、以て御奉書御願いの通り
為御付

同二年己巳正月五日、召しにより御名代として御同姓出羽守様御
登城、喜八郎君上州前橋へ御所替仰せつけ為られる
同月二十七日、御席大廊下に仰せ出さる
同年五月二十二日、姫路御渡し、前橋御請け取りあり
同年十一月十三日、前橋御本城利根川流御城の方へ欠け込み
危有之、御住居三ノ丸へ御移りの儀、御老中本多伯耆守
正珍侯に御達之處、同月二十七日、以て御奉書御願いの通り
為御付

同二年己巳正月五日、召しにより御名代として御同姓出羽守様御
登城、喜八郎君上州前橋へ御所替仰せつけ為られる
同月二十七日、御席大廊下に仰せ出さる
同年五月二十二日、姫路御渡し、前橋御請け取りあり
同年十一月十三日、前橋御本城利根川流御城の方へ欠け込み
危有之、御住居三ノ丸へ御移りの儀、御老中本多伯耆守
正珍侯に御達之處、同月二十七日、以て御奉書御願いの通り
為御付

同二年己巳正月五日、召しにより御名代として御同姓出羽守様御
登城、喜八郎君上州前橋へ御所替仰せつけ為られる
同月二十七日、御席大廊下に仰せ出さる
同年五月二十二日、姫路御渡し、前橋御請け取りあり
同年十一月十三日、前橋御本城利根川流御城の方へ欠け込み
危有之、御住居三ノ丸へ御移りの儀、御老中本多伯耆守
正珍侯に御達之處、同月二十七日、以て御奉書御願いの通り
為御付

之通御見分仰付御使番佐野与八郎殿御小姓組内藤
主水殿差遣之旨 仰渡

同年八月十一日石之御西士前橋江御着御見分相濟
明和二年乙酉十月十四日依 召御登 城來年 若君様

御元服付京都御使 爲蒙 仰且又任侍從之旨御
老中御渡 御年二十 歲

同三年丙戌五月八日御登 城京都御殿 仰出黄金御
時服御馬御拜領

同月十一日武江御發駕同月二十五日京師御着
同月二十八日阿部飛驒守殿より剪紙ヲ以來月朔日御參

同月二十八日阿部飛驒守殿より剪紙ヲ以來月朔日御參
内可成旨 仰出

同年六月朔日織田對馬守殿阿部飛驒守殿御同道御參
内御目録之通御進獻御口上之赴御上 拜 龍顏天

盃御頂戴夫ヨリ 女院御所 親王御所 准后御方江御
參 入上意之赴御上

同月四日御參 内音樂之上御饗應御頂戴下
同月七日御參 内御勅答仰出 品々御拜領御暇取

同月九日京師御發駕同月二十五日江府御着
同月二十八日御登 城 御勅答之赴御上

同四年丁亥閏九月十五日依 召御登 城於 御前前橋
城川欠付 武州川越城地下之段蒙 上意

同五年戊子三月二十五日川越城御受取下
同五年五月十三日川越御初入

同年六月十日於川越御逝去御壽三十一歲
同月 日宿繼ヲ 以御病氣御尋之御奉書到來之處御逝去

後ニ 付御返上了 其後千太郎君依御願御奉書御頂戴し
同年七月五日於孝頭寺御葬式奉葬城南仙波喜多院奉諡

靈鷲院殿枯華微笑大居士
御母公田畑氏女
文化二年乙丑二月二十四日御逝去御法号保寿院殿

御内室山内豐敷侯息女
宝曆八年戊寅五月三日御逝去奉葬貝塚万年山青松寺
御法号清淨院殿蓮香無染大姉
御繼室藤井兼矩卿御息女
文化二年乙丑四月二十日御逝去奉葬芝西應寺
御法号采運院殿

の通り御見分仰せ付けられ、御使番佐野与八郎殿・御小姓組内藤
主水殿差し遣わされの旨仰せ渡さる

同年八月十一日、右の御西士前橋へ御着き、御見分相濟む
明和二年乙酉十月十四日、召しにより御登 城、來年若君様

御元服につき、京都御使仰せ蒙りなされ、且つ又侍從に任ぜら
るるの旨御老中仰せ渡される、時御年二十八歳

同三年丙戌五月八日、御登 城、京都御暇仰せ出され、黄金・御
時服・御馬御拜領

同月十一日、武江御發駕、同月二十五日、京師御着
同月二十八日、阿部飛驒守殿より剪紙をもつて來月朔日御參

同月二十八日、阿部飛驒守殿より剪紙をもつて來月朔日御參
内ならるべき旨仰せ出さる

同年六月朔日、織田對馬守殿・阿部飛驒守殿御同道御參
内、御目録の通り御進獻、御口上の赴き仰せ上げられ、龍顏を拜

せられ、天盃御頂戴、それより 女院御所 親王御所 准后御
方へ御參入、上意の赴き仰せ上げらる

同月四日、御參 内、音樂の上、御饗應御頂戴あり
同月七日、御參 内、御勅答仰せ出され、品々御拜領、御暇仰せ

出さる
同月九日、京師御發駕、同月二十五日江府御着
同月二十八日、御登 城、御勅答の赴き仰せ上げらる

同四年丁亥閏九月十五日、召しにより御登 城、御前に於いて前
橋城川欠につき武州川越城地下されの段上意を蒙る

同五年戊子三月二十五日、川越城御受け取りあり
同五年五月十三日、川越城御初入りあり

同年六月十日、川越に於いて御逝去、御壽三十一歳、
同月 日宿繼を以て御病氣御尋ねの御奉書到來の処、御逝去

後につき御返上あり、その後千太郎君御願いにより御奉書御頂戴
也

同年七月五日、孝頭寺に於いて御葬式、城南仙波喜多院に葬り奉
る、靈鷲院殿枯華微笑大居士と諡奉る

御母公田畑氏女
文化二年乙丑二月二十四日御逝去、御法号保寿院殿、下谷泰宗寺
に葬り奉る

御内室山内豐敷侯息女
宝曆八年戊寅五月三日御逝去、貝塚万年山青松寺に葬り奉る
御法号清淨院殿蓮香無染大姉
御繼室藤井兼矩卿御息女
文化二年乙丑四月二十日御逝去、芝西應寺に葬り奉る
御法号采運院殿